

# Hello! FUJISEI

No. 40

年金定期便が届いてはじめて、自分の老後生活を真剣に考え始めたという方も少なくないようです。50代になって気づいてもまだ間に合いますが、やはり準備は早め早めにおきたいものです。

総務省のまとめた「家計調査報告（家計収支編）—平成22年平均速報結果の概況—」から老後生活の収支状況をみてみましょう。

### ●可処分所得は実質増加

総世帯のうち高齢無職世帯（世帯主が60歳以上の無職世帯）の実収入は183,668円で、前年に比べ実質0.9%の増加でした。内訳をみると、公的年金などの社会保障給付は、実収入の約9割を占める161,105円で、前年に比べ実質2.1%の増加。一方、直接税、社会保険料などの非消費支出は23,482円で、前年に比べ名目4.5%の減少となりました。その結果、可処分所得は160,187円で、実質1.6%の増加でした。

### ●消費支出は実質増加

消費支出は207,302円で、前年に比べ実質2.3%の増加でした。内訳をみ

## 真剣に考えていますか？ 老後の生活

# 実収入の9割が公的年金などの社保給付

ると、交通・通信、教養娯楽、住居などが実質増加となり、被服及び履物、食料などが実質減少となっています。

消費支出の費目別構成比をみると、交通・通信、住居、教養娯楽などの割合が上昇し、食料、交際費などの「その他の消費支出」、被服及び履物などの割合が低下しています。総世帯と比べると、「その他の消費支出」、保健医療、食料、光熱・水道などの割合が高くなっています。

なお、エンゲル係数は24.3%と、前年に比べ0.7ポイントの低下でした。

### ●平均消費性向は上昇

消費支出が可処分所得を上回る高齢無職世帯の平均消費性向は129.4%で、前年に比べ0.9ポイント上昇しました。消費支出に対する可処分所得の不足分は47,116円で、前年に比べ1,785円増加。不足分は金融資産の取崩しなどで賄われています。

なお、世帯主が60歳以上の世帯に占める無職世帯の割合は67.8%で、前年（66.9%）に比べ0.9ポイント上昇しています。勤労者世帯の割合は15.2%で、前年と同水準でした。

### 高齢無職世帯の家計収支（総世帯）

資料：総務省「家計調査報告（家計収支編）—平成22年平均速報結果の概況—」より

